

武蔵武士ゆかりの国宝短刀・景光

この短刀は元亨3(1323)年、今から約680年前に岡山県瀬戸内市(旧長船町)周辺で活躍していた景光という刀工によって作られたものです。それは刀身の柄(持つところ)に鑿で彫られた文字から分かります。刃には「秩父大菩薩」と大きく彫られていることから、これは埼玉県秩父市にある秩父神社に納めるために作られた短刀であったことがわかります。

中世の戦乱の中、この短刀は上杉謙信(1530~1578)の手に渡り、現在の拵はその時に作られたものと言われています。(刃長28.3cm・拵全長46.2cm)

● 出来上りは実物の約70%の縮尺になります ●



1 刀身



①ウラにのり付けし、半分におります

②表面にのり付けし、このパーツを「刀身」の中にはさみます

オモテ ウラ

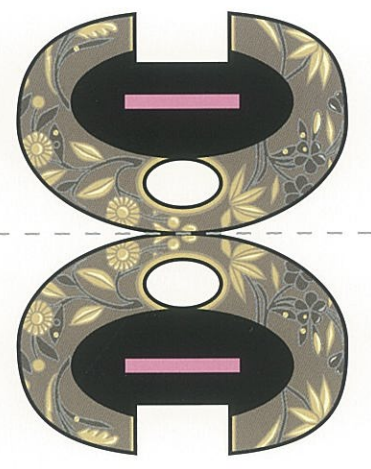
2 はばき 鉏



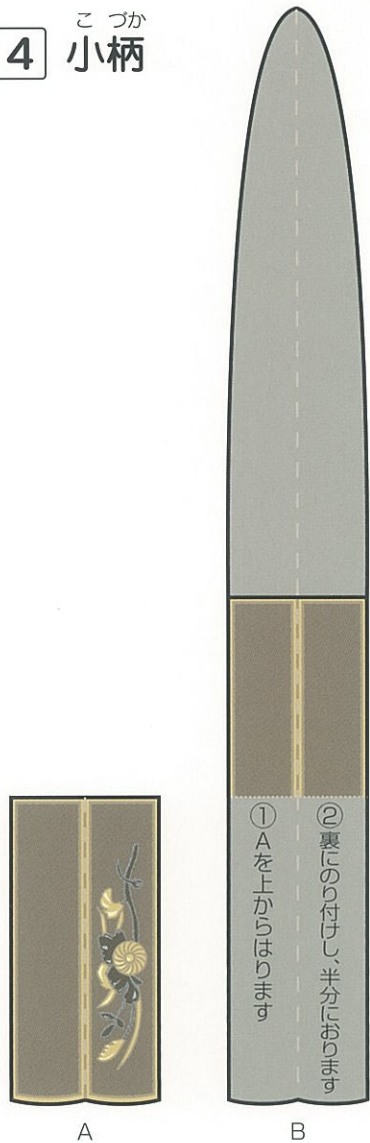
オモテ ウラ

3 つば 鐺

ウラにのり付けし、半分におります



4 こづか 小柄



A B

①Aを上からはります

②裏にのり付けし、半分におります

